

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790900013		
法人名	医療法人相双眼科医院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム森の都		
所在地	〒979-2512 福島県相馬市柘木字大関64-17		
自己評価作成日	平成21年12月31日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/infomationPublic.do?JCD=0790900013&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	〒960-8141 福島県福島市渡利字七社宮111		
訪問調査日	平成22年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな森林地帯を立地場所としており、四季を感じ、穏やかに過ごしていただける環境にあります。農家と契約。地元のおいしい米と新鮮な野菜、地元の新鮮な海産物を使った季節に応じた食事を提供しています。生活においては地元日立木地区の御理解の下、地域活動に参加。地域住民として安心して生活。また、施設においては一人一人役割等を持ったその人らしい生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは、明るく広々とした場所に建てられており、徒歩で行ける所には同じ法人の老人保健施設があり、利用者同士の交流が行われている。職員の教育は、法人内において定期的に研修が行われ、一人ひとりの介護力の向上に努めている。食事のメニューは、契約農家からの米や季節の野菜を使い、何をつくるか利用者とは話し合いながら献立を決めている。管理者・職員は、地域密着型の意義を考え、話し合いを行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく具体策を職員で検討。理念の現実に向け日々の介護実践に取り組んでいる。	「異體(いたい)同心」、「利用者本位」、「地域密着」を理念とし、職員で話し合いホーム独自の解釈文を作り、共有し、日々介護の実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	立地場所が国道を挟まなければ民家が無く日常的な付き合いは難しい面もあるが、老人会や公民館の協力を得て地域の活動や交流に参加。また、地域の方の訪問もある。	地域の公民館の行事や、地区の世代間交流会などに積極的に参加している。また、グループホームとして地域の一員であることや役割を考慮し多くのボランティアを受け入れており、さらに地域の方も訪問している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や交流、また施設への訪問時の中で随時地域の方々の認知症の相談を受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	現在、今後の取り組み等話し、意見をいただき、サービスの向上に取り組んでいる。また、会議を行事の日開催し、実際の状況も見ていただき助言等いただいている。	運営推進会議のメンバーは、市職員、老人会長、地域のボランティアの代表、家族代表などで構成されている。会議の司会は、メンバーから決め、意見が言いやすい状況に配慮している。しかし、メンバー数が少なく十分に機能しているとまでは言い難い。	利用者サービスの向上に向け、より幅広い観点から意見や助言を受けるために、新たにメンバーを増やす等、会議の充実を図ってほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の参加と助言等はもちろん、毎月、窓口に出向き現状の報告、相談等しており、協力関係が築けるよう努めている。	1ヶ月に1回、利用者の入退所状況を市の保健福祉部に報告している。その他、担当者を訪問し、気軽に相談などを行うことで協力、信頼関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を実施。弊害を理解し、拘束しないことを原則に、入居者様らしい生活の支援に努めている。	法人内の研修に事業所職員全員が参加するとともに、さらにグループホーム内でも報告会、勉強会をすることで職員一人ひとりが身体拘束をしないケアを理解し実践している。日中、玄関の施錠はしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を実施。高齢者虐待防止の理解、浸透に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会を実施。必要時活用、支援できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明、契約時丁寧に説明、不安や疑問を表出出来るよう働きかけています。後日疑問や不安が生じた場合は随時連絡いただき、不安や疑問を早期解決していただき、御利用していただけるよう支援している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から関係性を築けるよう声掛けを行っている事と、意見要望は施設運営に活かして行きたい旨契約時、他状況報告時等に説明し、気軽に話していただけるよう努めている。また、御意見箱の設置も行っている。	利用者や家族には、日頃から面会時や行事の際などに声をかけ、気軽に話ができるよう配慮している。また、玄関には意見箱を設置している。管理者が総合的な窓口となり、職員へは口頭その他、申し送りノートを利用し職員全員に周知徹底を図っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	個別、会議等で意見を聞く機会を設けています。また、管理者は管理業務他通常の介護業務に入り現状の把握に努め、意見、要望を聞き、運営に活かせるよう代表者と努めている。	管理者は、月1回以上事業所内の全体会議の際や、介護業務を通じて、職員が意見を言いやすい環境に努めている。また、職員の見・要望は積極的に取り入れ、運営に活かすようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等を把握。向上心を持ち働けるよう声掛け、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的、定期的内部研修機会を設け、また、外部研修への積極的参加を促し、質の維持、向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており研修会等を通じサービスの質の向上他事業所との交流に努めています。また開所前に研修させていただいた施設から現在も助言いただくこと多く、日々のサービス、職員育成に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人様に会い、本人様の話を聞くと共に、施設を見学いただき、不安の緩和に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時点で状況、御家族様の求めているものの把握に努め、その対応について話し合い、不安や疑問の表出が出来るよう働きかけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況の把握に努め、早急な対応が必要時は法人他サービスや他の事業所のサービス等に繋げられるよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩。先輩から日々知恵をいただき、共に支えあい生活しているという考えの下に生活、関係性を築いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の報告の中で今まで知らなかった入居者様の新たな一面を知ること、御家族様の新たな思いを感じることもあり、家族様の思いに近づき、共に本人様を支援して行けるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた美容師さんに来ていただいたり、働いていた市場へ出かけたりし、今までの人や場との関係が継続出来るよう支援している。	市外から馴染みの美容師が来所したり、友人が訪れたりたり、また、利用者の、手紙や電話での交流も支援している。受診後、帰る途中で友人宅や以前の職場を訪れたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう柔軟な対応に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、助け合い、支えあいを大切に、共に暮らしを楽しめるよう、孤立しないよう入居者様同士の関係調整に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し自宅へ戻られた方へも連絡、相談等継続的な支援している。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	日頃の言動等考慮しながら本人の望む暮らしを家族の意見も取り入れ検討している。	利用者を担当する職員が決まっており、会話や表情から希望、意向を把握している。カンファレンスはもとより日頃から管理者と担当以外の職員も話し合い、利用者の意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時はもちろん、日々の本人との関わりの中から把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、日々の生活を把握、理解することにより現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で随時意見等伺い、意向に沿えるよう状況を踏まえてチームで検討、作成している。	利用者を担当する職員がモニタリングを行い、利用者や家族の希望、意向を把握し、カンファレンスにおいて職員全員で話し合い、管理者である計画作成者が介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や変化、入居者様の思いを記録に残し検討。見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医と連携を図り、できるだけ早期退院出来、本人様、ご家族様の望む生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会や公民館の協力を得て地域住民の方との関わりを持ち、入居者が地域住民であることを自覚し、安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、基本的には今までかかっていた馴染みの医師、もしくは御家族様の希望する医師をかかりつけ医としている。	利用者・家族の入所前からのかかりつけ医の受診を継続している。通院は、看護師または職員が付き添って受診の支援を行っているが、医師の判断によっては、家族にも同行してもらっている。受診の結果については家族に報告を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況変化は申し送り報告。状況に応じかかりつけ医と連携を図り対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー(要約)を入院機関に提供。病院や御家族様と連絡を取り合い、状態が安定し早期退院出来るよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化の対応はまだ経験しておりませんが、重度化した場合における対応にかかる指針を定め、御家族様へ説明している。	重度化における対応指針を定め、家族に入所時から説明を行っている。希望により重度化しても事業所で対応出来る体制を整えている。職員は法人内外の研修などで方針を共有することの重要性を学んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加し、蘇生術等を学ぶ機会を設けている。また、施設内の勉強会も実施し、対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回入居者様と共に避難訓練、消防署の協力を得て介護老人保健施設と共に消火器の使用方法等の訓練を実施している。	避難訓練は、年2回夜間を想定し消防署や同法人内の老人保健施設の協力を得て実施している。また、スプリンクラー、緊急通報装置を年度内に設置することを予定している。食料、水の備蓄は無いが契約農家等の協力は得られる。近隣や消防団の協力体制は確保されていない。	近隣住民や地元消防団に事業所の見学や避難訓練の様子を見学していただく等協力体制を確保し、避難体制のさらなる充実を図り利用者の安全確保に努めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士が注意、声掛けし合い自尊心や誇り、プライバシーへの配慮をしている。	職員は、法人内の初任者研修でプライバシーへの配慮について研修を受けており、事業所内にも規定がある。また、管理者を含め職員同士がお互いに注意、確認し合える関係を築いており、利用者の尊重とプライバシー確保に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の自己決定能力に応じ声掛け、選択の肢提示等行いなるべく自己決定していただけるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れが定着しているが、一人ひとりの生活リズムや希望、体調等考慮し、柔軟に対応できるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、なるべく本人の好みで決めていただき、不十分な部分をお手伝いさせていただいております。理美容時も本人の今まで利用していた美容師をお願いしたり、本人様の希望を取り入れていただけるようお願いしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	契約農家から提供いただいた新鮮な野菜を使用し、入居者様の嗜好を取り入れた献立を検討。希望や体調等に応じ下ごしらえや洗い物等会話を楽しみながら一緒に行っている。	契約農家から新鮮な野菜が提供され、メニューはその時提供された食材で利用者とは相談しながら決めている。治療食が必要な利用者については法人内の老人保健施設の管理栄養士に相談している。しかし利用者と一緒に食事を摂っている職員は業務の都合上1人だけである。	利用者にとって職員と一緒に食事を摂る意味について、職員で話し合い、一緒に食事を味わいながら、食事を楽しむ環境づくりに努めてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の推移、受診時の検査結果等参考に主治医と相談しながら嗜好や習慣を考慮して支援している。食事形態の工夫によりなるべく摂取していただけるよう工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い、能力に応じて見守り、介助を行っている。状況、家族様意向に応じ夜間洗浄剤による義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握、失敗してもなるべくおむつは使用せず、声掛け、誘導にてトイレでの排泄を促しています。御家族様にもトイレでの排泄の大切さを説明。協力していただき、状況を報告している。	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握、体調チェックと合わせ活用している。また、介護計画に記載し、トイレでの排泄介助を基本とし排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や、毎日軽い運動を行い、なるべく自然排便出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低限度の入浴日を決めているが、決められた日以外にも希望にて入浴を施行しています。羞恥心やその日の状態や疾患等考慮しながら入浴を進めている。	利用者の希望により、好きな時間、夜間でも入浴できる体制となっている。冬期間中は、日中の暖かい時間に週4日の入浴を実施することが多い。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを崩さず、なおかつ日中に活動の時間を設け、夜間ゆっくり休息が取れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や、処方箋のコピーを個人のケースファイルに整理し、内容の把握に努めている。また、随時主治医に状況を報告。薬は原則手渡し、服薬確認を必ず行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、後片付け、洗濯、花壇の花の整備等本人の希望等に応じ役割を持っていただくと共に残存機能の維持に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望や季節に応じ花見や釣堀等季節を感じてもらおう外出をはじめ、地域公民館活動への参加、散歩や希望により買い物を楽しんだりしています。また、以前働いていた市場を見に出掛けたり、野菜の収穫、墓参り等に出掛けている。	利用者一人ひとりに対応し、遠方であっても墓参りや友人宅への訪問を支援している。花見や野菜の収穫、釣堀など季節に応じた行事の際には利用者の家族にも声をかけ外出している。また、日常的にもホームの周りの花の手入れなど戸外に出る機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、御家族様の希望、状態により使用時自分の財布から支払いをしていただき、安心感、満足感、社会性の維持に努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を使用し居室で会話していただき内容が漏れないよう、気兼ねなく会話をしていただいております。手紙も積極的に支援し、今までの関係の継続を支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はカウンター式になっており、調理等の生活音、匂いがあり、また、季節に応じた旬の新鮮な野菜を使用した料理やゆず湯等季節感を感じていただけるよう工夫しております。また談話室、各居室からは周囲の緑が見え穏やかに過ごせる空間となっている。	居間、台所、事務所がカウンター式で繋がっており、大きな窓や天井には明かり取りの窓もあって、とても明るい。大きな掘りごたつもあり、日中居間で過ごすことが多い利用者はこたつで横になるなど居心地のよい空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に長いす、廊下踊り場にテーブルやイスを設置、仲の良い入居者様同士でゆっくり過ごせる空間の工夫をしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	契約説明の際、入居者には新品ではなく今まで使用していた馴染みの物を入れていただくよう説明して入れていただいている。使い慣れた椅子や寛げるソファ、本人様の趣味を生かした絵画や御家族様の写真等入居者様に応じた居心地の良い空間作りの工夫をしている。	利用者は、入所前から使っていた家具を持ち込み、使い慣れた椅子や広いソファでくつろいでいる。それぞれの居室が個人の趣味に合わせ、その人らしくなっている。各居室にトイレが設置されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室入り口にのれん、自室にはその方の好む目印等行い、不安や混乱を防ぎ、また入居者様の状態に応じたイスの工夫、残存機能を生かせるベット柵の工夫を行い、自立への配慮を行っている。		